



アルゼンチン通信



第23号 2026年06月30日発行(毎月月末発行予定)

JICAシニア海外協力隊2024年1次隊:経営管理

玉東町グローバル2024年03月卒業生

鈴木功二 サンティアゴ・デル・エステロ在住

・6月は、曇りの日が一週間続いたと思ったら、快晴の日が一週間続くといった感じでした。朝の気温が1℃近くまで下がることもあり、冬になったことを実感します。冬と言っても、日中は20℃近くまで上がるので、寒暖差が体にこたえます。アルゼンチンの今年の冬至(一年の中で日照時間が最も短い日)は6月21日でした。これからは日が長くなり、特に朝出掛ける時、徐々に明るくなるので生きる希望が湧いてきます。

・私が勤務しているノード(展示場)で、6月23日に「エルニーニョ現象」の会議が開催されました。いつもどこかで異常気象になっていて、「異常」が平常になっている感がありますが、今年はヨーロッパが猛暑で、ここでも大きくニュースに取り上げられています。私がドイツに住んでいた2003年も大変な猛暑で、当時も冷房は普及しておらず、あわてて扇風機を買いに行っても売切れ、水風呂に入って体を冷やした記憶があります。やっと扇風機を買えた頃には涼しくなり始め、その後6年間以上、扇風機を使うことはなかったので、これも一時的な猛暑であってほしいです。2003年のワインはどのワインも美味しかったので、2026年のワインも楽しみです。ここでも、気温が40℃以上になることはありますが、エアコンが比較的普及していて、シエスタの習慣もあるので、私にとっては過ごしやすい気候です。

・6月も祝日が二日ありました。6月15日のグエーメス将軍逝去の日、そして20日のベルグラノ将軍逝去の日(国旗の日)です。両将軍ともサンマルティン将軍と同様にアルゼンチンの英雄で、市内ではセレモニーが行われました。

・私が配属されているインティ(国立工業技術院)だけと思いますが、6月22日と26日は自宅勤務の日でした。最初は、ワールドカップサッカーの為か？と気楽に捉えていたのですが、INTIの本部からの指示で、その理由は明記されていません。一部のマスメディアでは「ロックアウト」と表現しているので、ミレイ政権の人員削減と部門閉鎖に反対するデモと私は理解しています。デモやストをしてもインティの付加価値の高さをPRすることにはならないので、自宅勤務がささやかな抵抗の手段なのだと思います。

「エルニーニョ現象」の会議案内

CONFERENCIA
FENÓMENO DE "EL NIÑO"
Alerta temprana para Santiago del Estero.
Conferencia provincial del riesgo hidrológico y perspectiva climática para el 2026/2027.

Objetivo
Fortalecer las capacidades de anticipación, prevención y respuesta frente a los impactos asociados al fenómeno climático El Niño.

• Apertura a cargo de autoridades
• Conferencias de especialistas del INTA SDE, INTA Castelar, Gobierno de la Provincia, Servicio Meteorológico Nacional y HydroDevs

Se invita a profesionales, tomadores de decisiones en organismos provinciales, municipios y comisiones municipales, asociaciones de productores, cámaras empresariales, colegio de profesionales y público interesado en la temática.

Martes 23 de junio 09:00 a 11:30 h Auditorio NODO TECNOLÓGICO

INTA UNSE Ministerio de Ciencia y Tecnología Secretaría de Ciencia y Tecnología INTA SDE SANTIAGO DEL ESTERO

インティ事務所入口：部門閉鎖等に反対の貼り紙



通勤途中の朝焼け、気温3℃で寒い。



・今回は、銀行での経験と陶銭のセミナーについて、報告します。

・日本の銀行の場合、ドルを直接キャッシュで引き出すことはできず、外貨預金でも円預金に振り替えて円で引き出すのが原則ですが、アルゼンチンの銀行では、ドルをそのまま入金/預金/出金できます。これは、かつて1000 1ペソの固定レートの時代があったことやペソに対する信頼が背景にあると思われます。また、同じ銀行の登録された支店であれば、手数料なしでドルを引き出すことができます。同じ銀行の支店であればどこでも同じと思いますが、ここでは登録された支店だけです。私が住んでいる市内には二つの支店があり、家に近い支店を登録、過去2年近くは、問題なくドルを引き出していました。ところが、最近になって、その支店が改装され、銀行員からドル現金を引き出すブースがなくなり、ATMから少額だけ引き出せる状況になりました。このような大きな変更がある場合、預金者に事前通知して、新しくなった支店に変更内容を掲示するのが普通だと思うのですが、ここでは通知が全くなく、銀行員に尋ねて初めて知ることになりました。自部門の都合が優先し、顧客のことを考慮していないと感じる場面は、他にもあって、例えば、スーパーマーケットで、表示価格と会計時の価格が違う場合、日本では店側が誤りを認め、表示価格での会計になりましたが、ここでは、違いを指摘すると、店側が表示価格を平然と変更、後追いで変更した価格で会計するのが当然のスタンスでした。考え方の違いというか習慣の違いというか、いろいろな出来事の中の「違和感」を私は楽しむことにしています。私が、ここであまりレストランに行かない理由は、①日本より割高、②注文してから待たされることが多い等だけでなく、サービスに対する感覚の違いもある為と思います。

・ところで、「陶銭」をご存知ですか？ 私はセラミック電子部品業界で長く働き、セラミックのルーツを学ぶ中でかうじて知っていたのですが、おそらく多くの日本人は知らない、アルゼンチン人であればなおさら知らないと思います。陶銭とは、1944年頃の太平洋戦争末期、日本で金属類の不足により、代用品として製造された陶器製のコインです。ほぼ流通するしなかったため「幻の貨幣」と呼ばれます。私が住んでいるサンティアゴデルエステロには、古銭とプラスチック紙幣を収集している愛好家がいて、そのグループ主催の「Moneda de Arcilla Japonesa(日本の陶銭)」というセミナーに参加してきました。「17時開始」なので、私は30分ほど遅れて行ったのですが、実際に開始したのは18時近くで、時間の感覚はまさにアルゼンチンでした。セミナーそのものは20分ほどのプレゼンテーションだったのですが、驚いたのは、その内容が私も知らない詳細だったことと、子供が3人も熱心に聞いていたことです。古銭に興味がある大人であればわからなくもないのですが、一人の子供に訊いてみると「知ることが楽しい。」でした。その意味は、初めて知ったワクワク感だけでなく、同じ知識を仲間で共有する繋がり喜びなのだと私は解釈しました。セミナー後は本物の陶銭が回覧されてきて、私は現物を初めて見ました。ネットのオークションで手に入れたそうです。日本でもあまり知られていない陶銭が地球の裏側のアルゼンチンの地方都市で話題になることは日本人として有難く思い、お互いの文化や歴史を知り合う意義を実感する日になりました。



ATM：日本と基本機能はほぼ同じ。ボタンを押した時の反応が遅いので、落ち着いて操作する必要がある。



陶銭セミナーのポスター：終了時間や当日のスケジュールがないのが特徴。



陶銭セミナーで熱心に聞き入る人々、子供もいる。



陶銭：日本の10銭、1円 = 100銭